

本松敬史 元西部方面総監
講話の拝聴所感

神町駐屯地修親会第二分会長

(第六後方支援連隊長)

一等陸佐 小島 一男

令和6年9月13日(金)、神町駐屯地において、陸修偕行社の陸上自衛隊等協力委員会の委員であり、元西部方面総監の本松敬史氏を招聘し、演題「我が国を取り巻く安全保障環境を踏まえた防衛体制(隊務運営等の在り方)について」の講話をいただきました。当日は、神町駐屯地に所属する修親会員約130名が本講話を受講しました。

本松氏は、第8師団長、西部方面

総監等を歴任したご経験を踏まえ、地政学的観点から見た欧州及び中東並びに日本を取り巻く安全保障環境、周辺国が行動を起こす可能性として対象国の「意思」「能力」「トリガー」がバロメーターになること及び安保関連三文書に基づく「南西防衛体制強化の重要性」について具体的に説明され、我々が現職幹部自衛官として押さえるべき国際情勢と防衛体制・態勢について再認識するとともに、国内外に対する構えとしての抑止力と事態に対する対処力が重要であることを理解できました。

また、本題として、厳しい環境下における隊務運営の在り方について



神町駐屯地正門

説明され、部隊が行う訓練や事業を

「氷山」に例えられ、目に見える氷山の一角はほんのわずかであり、見えない努力が部隊精強化に繋がるものであると述べられました。さらに、これらの環境下にあつて機動師団である第6師団に求められる隊務運営について、実効性ある訓練の積み重ね及び基本基礎の徹底による継続的な部隊の練度向上が必要であり、加えて部隊・隊員として、三つのコミュニケーション、①挨拶にはじまる部下・上司・同僚間のコミュニケーション、②自身を客観視するための自分(心)とのコミュニケーション、③内なる支えである家族とのコミュニケーションが部隊の健全性及び信頼を築き、国民の負託に応えることに繋がると示されました。

質疑応答では、少子化の中における募集環境下において、離職する隊員を引き留めるための施策はいかにとの質問に対して、本松氏の沖縄地方協力本部長時代の経験談を基に、自衛隊の特性・魅力に関する部外への発信能力の向上及びメディア等の有効活用が重要であると説明され、今後の自衛隊における離職防止及び人材獲得への反映の資とすることが

できました。

最後に、神町駐屯地修親会として、今回の講話依頼を快諾いただいた本松氏に心から感謝申し上げますとともに、陸修偕行社の益々のご発展を祈念いたします。



神町駐屯地創立記念行事

児玉神社の現状

法人会員

(株)アシスト代表取締役

平井 宏治

わが国では、1992年以降、民間企業の平均年収は30年間伸びず、少子高齢化が進んでいる。檀家とし